

学校教育目標	夢と志をもち 果敢に挑戦し 自己実現する児童生徒の育成	経営理念	【ミッション】「地域とともに未来を創る ー学校での学びを地域社会に結びつけるー」 【ビジョン】○課題に主体的に向き合い、解決に向けた行動をとることのできる人材の育成。 ○変化の大きい世界の中で状況を把握し、目標を持ち、他者と協力して課題解決に取り組むことのできる人材の育成。
--------	-----------------------------	------	---

評価計画					自己評価				改善方策	学校関係者評価 (学校運営協議会による評価)				
項目	重点	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価項目	目標値	達成値		達成度 (月)	評価 (月)	結果と課題の分析 (月)	改善方策 (月)	評価 (月)	コメント (月)
							10月	2月						
確かな学力の育成	1	学びに向かう姿勢を整え、育てたい資質能力「推論する力」の育成を図り、小中一貫教育を深化する。 (重点) ○「推論する力」の全教科展開 ○小中一貫教育の質的向上 ○eSTEAM教育の推進と地域貢献意識の向上	・ICT活用の推進を図り、「推論する力」の育成を図る。	・全教科において「類推・演繹・帰納」の推論ステップを活用した「推論する力」を育成する。	・単元末テストにおいて、思考・判断・表現の項目の正答率60%以上の児童生徒を70%以上にする。	70%								
				・各教科の特性に応じて、効果的にICTを利活用する。	・児童生徒質問紙、教職員質問紙において、「ICTを週3回以上学習に役立てている」と回答する児童生徒及び教職員の割合を95%以上にする。	95%								
				・高学年を中心に、中学校から小学校への乗入授業を行い、児童の状況を多面的に把握し指導に生かす。	・週1回以上連携をし、授業作りの理解を深めるとともに、児童の状況を共有する。	100%								
				・小中「互いの授業参観」を確実に実施できるよう時間割調整を工夫し、授業づくりへの理解を深める等の共通化を図る。	・教職員質問紙において、年3回以上、小中の授業を見て回る教職員の割合を90%にする。	90%								
豊かな心・健やかな体の育成	2	自立・自律し、自他のことを大切に、自己の健康と体力について理解して、高めていこうとする児童生徒を育成する。 (重点) ○自己有用感を高める異年齢交流活動、部活動の地域展開 ○健康的な生活習慣、体力の向上 ○SSR(生城山ルーム)の充実、通級指導教室の効果的運用	・志和地域をフィールドとした探究的な学びを継続し、カリキュラム・マネジメントの視点から単元開発をさらに進める。	・総合的な学習の時間を中心に、地域をフィールドとし、推論する力を発揮できるようカリキュラムを改善する。	・教職員質問紙において、「推論する場を設定している」と回答する教職員の割合を100%にする。 ・児童生徒質問紙において、「根拠をもとに推論することができる」と回答する児童生徒の割合を70%以上にする。	教職員100% 児童生徒70%								
				・異年齢の良さを活かし、児童会・生徒会活動や学校行事、部活動等を主体的に運営する体制を充実させ、自己有用感の向上を図る。	・児童生徒の主体性と自発性を育てるために、児童会や生徒会活動をはじめとした活動を充実させる。	85%								
				・健康的な生活習慣について考え、健やかな体づくりに主体的に取り組む児童生徒を育成する。	・児童生徒が「スモールステップでの目標設定」と「中間評価」を取り入れることで、さらなる自己有用感の向上を図る。	80%								
				・「安全・安心な学校づくり」を推進し、児童生徒への支援体制を整える。	・不登校の未然防止のため、学級における積極的生徒指導を行うとともに、児童生徒理解を深めるために、スクールカウンセラーや心のサポーター等と連携し、SSRを適切に運営する。	80%								
信頼される学校	3	・コミュニティ・スクールを活性化し、地域とともにある学校として、信頼される学校づくりを推進する。	・コミュニティ・スクールの体制を強化する。	・コミュニティ・スクールの拠点とした地域人材の可視化と連携強化と活動を実施する。	・コミュニティ・スクール推進員と地域学校協働活動推進員、管理職による連携を毎月1回実施する。	100%								
				・学校HPや学校だよりなど、保護者・地域への効果的な情報発信を行う。	・学校の取組や児童生徒の活動の様子を広く発信する。	80%								
働き方改革	4	・持続可能な教育環境の構築を目指し、業務改善を推進、超過勤務時間の月平均45時間以内を目指す。	・教職員が「働きやすさ」を感じ、「やりがい」を持って働ける環境を整える。	・教職員の心身の状況を積極的に把握する。	・学校衛生委員会において、入退校記録等や教職員の意見を基に勤務実態および心身の状況を分析し、改善策の検討・実施、検証を毎月1回行う。	100%								
				・地域の協力ネットワークとの具体的な連携体制を構築し、持続可能な教育環境の充実を図る。	・学校運営協議会と連携し、具体的な支援ニーズ(登下校指導、部活動、行事準備等)に対応した人材・資源とのマッチングを図る。	80%								

※目標の精選と重点化を行い、重点の項に「1」「2」「3」で表示する。

■自己評価
4...100%以上 3...90～99%達成 2...80～89%達成 1...79%以下

■学校関係者評価
A...とても適切である B...概ね適切である C...あまり適切でない D...全く適切でない (N...判定できない)